

## 2008年度 卒業論文講評

2009年2月 小関 隆志

### 狩野邦明「非正規雇用の収入による格差の問題」

「ワーキング・プア」や「ネットカフェ難民」「派遣切り」「雇用破壊」など、非正規雇用をめぐる問題は深刻さを増しています。非正規労働者はいつ解雇されるか分からない不安定な立場に置かれ、正規労働者として働きたくても、働く場がなかなかないと言われていいます。しかも世界的な金融危機が追い討ちをかけて、非正規労働者が真っ先に解雇され、職だけでなく住まいも奪われてしまうという、まさに危機的な状況が起きています。

これから大学を卒業して企業に就職する狩野さんにとって、この非正規雇用の問題は決して他人事ではありませんでした。狩野さんだけでなく、おそらく就職活動を経験した学生は多かれ少なかれ、自らの問題として、雇用問題に関心を持つのではないのでしょうか。

狩野さんが特に関心を持ったのは、正規労働者と非正規労働者の収入格差の問題です。一説には、正規労働者と非正規労働者の生涯賃金は、およそ5倍と言われていますが、何故そんなに格差が開いてしまうのか、解決策は見出せるのか？という問題に、正面から取り組みました。特に、マスコミでも最近注目を集めている「ネットカフェ難民」に関心を持ち、実際にインターネットカフェで寝泊りを試してみたとのこと。

この論文で優れている点は、主張したいことをきちんと整理して、明確に打ち出していることです。「第1章のデータからわかるものを以下にまとめる」「第1章からわかることは・・・」(14ページ)と、結論を要約して示すことによって、説得力が増しますね。

非正規雇用といっても、パート、アルバイト、派遣労働者など、様々な階層があり、それぞれにかかえる事情が異なります。統計データを用いて議論を展開する際には、もっと厳密にデータの根拠や背景を検証したほうがいいかもしれません。

それはともかく、今日本で最もホットな話題をタイムリーに取り上げて論文にまとめたのは、とても良かったと思います。